

II 障害者支援施設 久喜けいわ

1. 実施事業

(1) 定員と利用率

令和6年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	67名	68名	98.1%
施設入所	54名	54名	99.4%
短期入所	6名		95.2%
就労移行	6名	1名	56.1%
就労継続B型	32名	35名	98.6%

(2) 利用者年齢構成

※()は施設入所

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均年齢
生活介護	男性	2(1)	6(1)	11(11)	21(19)	0	0	0	47.7歳 (49.8歳)
	女性	3(1)	5(2)	2(2)	10(9)	2(2)	4(4)	2(2)	53.0歳 (57.8歳)
計		5(2)	11(3)	13(13)	31(28)	2(2)	4(4)	2(2)	68人 (54人)
就労移行	男性								
	女性	1							20.0歳
就労継続 B型	男性	7	8	2	1	1	2		38.5歳
	女性	2	3	2	2	2	2	1	49.6歳
計		10	11	4	3	3	4	1	36人

(3) 障害支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性	1(0)	3(0)	9(6)	27(26)	40人(31人)
	女性	1(0)	1(0)	5(3)	21(19)	28人(22人)
計		2(0)	4(0)	14(9)	48(45)	68人(54人)

(4) 工賃支給額

<生活介護>

※3月31日分は令和6年4月26日に支給

支給日	10月31日	3月31日	合計
工賃支給額	366,800円	659,700円	1,026,500円
平均支給額	5,394円	9,701円	

<就労継続B型>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
12,841円	10,292円	11,813円	12,495円	6,262円	9,814円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
16,510円	14,504円	15,110円	13,337円	14,160円	16,104円	12,770円

<生活支援課>

2. 重点実施事項

(1) 「人生を楽しもう！」

以下の項目を柱として事業を実施した。(内容は「具体的取組み」に記載)

- ・ 仕事を楽しむ ・ 活動を楽しむ ・ 好きなことを楽しむ
- ・ 人とのつながりを楽しむ ・ 学びを楽しむ ・ 健康に暮らす

(2) 支援のチーム力強化

- ・ 棟ごとの課題点を話し合い各棟で目標を設定。1年をとおしてチームで目標達成することに重点を置いて取り組んだ。年度末には、生活支援課会議にて各棟の取り組み状況を発表しあい成果を確認した。
- ・ 活動班の再編成については取り組みの途中であり、要望に応えられていない部分も残ってしまったため、来年度以降も引き続き取り組んでいく。
- ・ クラブ活動は種類も活動頻度も増やし、活性化することができた。

(3) 人権擁護の意識向上

- ・ 毎月、人権擁護に関する標語を職員同士で作成し、掲示して取り組んだ。結果について月ごとに職員アンケートを実施し、良い支援を行った職員名を挙げるなどした。標語の見える化と互いの行動を確認し合うことで人権意識が高まり、丁寧な対応を心掛ける姿勢につながった。
- ・ 身体拘束適正化については、言葉の拘束「スピーチロック」についてのアンケートを実施し、その結果に基づき、現場での言葉かけについての意見交換を行った。

3. 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 活動を楽しむ

(ア) コロナの5類への移行に伴い、活動内容の見直しと再編成を行った。少しずつコロナ前の状態に戻りつつあるが、一人一人の希望や適性に合った活動班を揃えるまでには至っておらず、今後も引き続き活動の充実に力を入れていきたい。

イ 好きなことを楽しむ

(ア) グランド内に自動販売機を設置し、利用者が飲みたいときに1人でも購入しに行けるようにした。そのほか、生活のさまざまな場面で利用者が選択できる機会を意識的に増やした。

(イ) クラブ活動は、利用者全員が活動に参加することができた。

「マラソンクラブ」

大会参加を目指して練習を行い、3月の久喜マラソンに2名の利用者が参加し完走。大会ではマラソンボランティアが伴走を行ってくれた。

「音楽クラブ」

毎月1回、定例で実施。ボランティアでピアノ講師に来て頂き、歌や楽器演奏を楽しんだ。

「ハイキングクラブ」

3回実施。みかも山や筑波山登山、森林公園でのハイキングに出かけた。
「シネマクラブ」

利用者の希望を聞き取り、機能訓練棟や映画館での鑑賞を楽しんだ。
「いきいきクラブ」

外出先で季節の花の鑑賞をしたり、ボランティアの華道の先生と一緒に
生け花を楽しんだ。

ウ 健康に暮らす

- (ア) 理学療法士の訪問指導を月に2回実施。個別訓練が必要な利用者については、簡単なリハビリプログラムの指導を受けて実施した。
- (イ) 歯科通院が出来ない利用者に対して、月1回、訪問歯科を実施した。口を大きく開けることが苦手だった人も、診察を重ねるうちに大きく開けられるようになり、毎食後のブラッシングができるようになった。
- (ウ) 嚥下機能に課題のある利用者に対して、言語療法士の訪問指導でアドバイスを受け、安全でおいしく食事ができるようにしている。
- (エ) 毎月1回、健康運動指導士にきてもらい、機能訓練棟で楽しみながら体を動かす時間を作った。そのほか、月に2回、運動レク担当職員による運動日を設けて実施した。
- (オ) 腰痛や関節が固い利用者に対して、月2回、鍼灸師による訪問マッサージを行った。現在8名の利用者が定期利用している。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 仕事を楽しむ

- (ア) 勤務表作成前に職員たちに休日の希望日を確認し、できるだけ要望に応えるようにした。連休取得については職員の要望も高いことから、全員がとれるよう割り振りを行って対応した。
- (イ) 「プロジェクトK」の活動として「ほほえみ便り」を年3回発行した。職員の声と虐待に関する記事などを掲載し棟内に掲示した。
- (ウ) 棟会議では、利用者への対応や環境整備などの課題点について話し合い、解決策を検討した。特に利用者対応については、職員が悩みを抱え込まないよう問題点を全体化し、チームで対応できる環境を作った。

(3) 人材育成

ア 学びを楽しむ

- (ア) 強度行動障害についての外部研修は計画的に参加した。受講内容の共有化は各棟の会議の中で行った。
- (イ) 介護技術の専門性を高めるため、利用者への訪問指導を受ける際に理学療法士から介助の仕方などを学んだ。高齢化施設での現場実習はコロナ感染症の影響で実施できなかった。

<主な参加研修>

外部研修	感染症予防、接遇、職場内コミュニケーション、福祉現場に必要な法律の基礎知識、労務管理、リスクマネジメント、強度行動障害、実践交流会、AED講習
内部研修	アンダーマネジメント、虐待防止、メンタルヘルス、身体拘束防止など

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア) 地震、火災、水害を想定した避難訓練を3回実施した。水害訓練では、縦避難として自立棟2階への避難を実施したが、車いす利用者の避難の仕方について課題も見えたため、今後もさまざま想定での訓練を行っていく。
- (イ) 大規模災害を想定し、防災担当職員による防災器具点検と、大地震による火災発生を想定した避難訓練を実施した。防災用具を実際使用する訓練を計画したが、コロナ発生により延期となり次年度に持ち越しとなった。
- (ウ) 夜間の緊急時対応がスムーズに行えるよう、夜勤者3名のなかの責任者を勤務表に記載し指示命令系統を明確にした。

イ リスク回避

- (ア) 事前のリスク回避として、各棟で危険個所の点検を定期的に行った。
- (イ) 危険個所の点検や、利用者への対応方法について意見交換を行うなどしてリスク回避に努めたが、転倒事故や喉の詰まりによる窒息事故が発生してしまった。身体機能の衰えが顕著な利用者もいるため、原因究明と同時に一人一人のアセスメントをしっかりと行い、再発防止につなげたい。

(5) 事業運営

ア 生活環境改善のための主な各所修繕

- (ア) 食堂床の張り替えについては、こちらと業者がそれぞれ順番にコロナ感染を起こしてしまい、工事日を2回延長することになったため、次年度に持ち越しとなった。
- (イ) 4年ぶりに専門業者による棟内清掃を実施した。コロナ禍の間に行っていた消毒により、床面の傷みがひどくなってしまった箇所があり、建替え計画と照らし合わせながら修繕を検討していく。
- (ウ) 自立棟の2人部屋に間仕切り設置を計画したが、居室利用者の了解が得られず実施できなかった。
- (エ) グランドに人工芝を貼り、日向ぼっこしながらのんびり過ごせる空間を作った。

イ 旧棟建て替えに向けた取り組み

- (ア) 他施設や活動場所として参考となるような場所を見学した。改築した近隣施設の見学では、お風呂場やトイレなど、現場の随所に支援の工夫がみられ参考となった。
- (イ) 設計士との打ち合わせを綿密に行いながら、旧棟建て替えに向けた準備を進めている。

< 就労支援課 >

1. 重点実施事項

(1) 就労移行支援

- ・リレーションシップセンター久喜を利用し就労アセスメントを実施した。また、委託訓練に参加して職場体験実習に取り組み、職場でのアセスメントを取りながら、就労に結びつける仕組みを構築した。委託訓練には3名が参加し、1名が就労に結びついた。
- ・定期的に就労支援センターと連絡会を行い、求人情報や新規利用者の相談を実施した。結果として1名の新規利用者の確保に繋がった。

(2) 就労継続 B 型

- ・昨年度の平均工賃は 12,770 円となり、目標平均工賃 15,000 円には届かなかった。
- ・作業収益を増やすため、新規の受託作業を 2 件取り入れ、利用者の特性に合った作業工程に取り組んだ。
- ・毎月、事業別会議にて各作業の振り返りや組み立ての見直しを行ったが、繁忙期と閑散期に大きな差ができ、安定した作業種の確保はできなかった。

2. 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 就労移行支援

- (ア) 月に 1 回座学の時間を作り、「日常生活のマナーやルール」「働くとは」「報連相のタイミング」「電話のかけ方」など働く上でのマナーを学んだ。
- (イ) 就職した利用者の面談と職場訪問を実施。今後も継続し、職場定着が図れるようフォロー体制を強化していく。

イ 就労継続支援 B 型

- (ア) 利用者特性に合わせたグループ分けを行った。工程が難しいものはペアを組んだり、補助具を使用するなどして、できることが増えるよう取り組んだ。
- (イ) 高齢利用者に対しては、体調面を優先し、その日の状態に合わせて負担のない作業種に取り組めるようにした。
- (ウ) グループホーム清久や他事業所と情報を共有し、作業補助や通院同行などチームで利用者を支援した。
- (エ) 味噌販売の促進に向け、けいわフーズプロジェクトを立ち上げ、ラベルの変更に取り組んだ。価格の見直しについては次年度に持ちこしとなった。

ウ 虐待防止対策

- (ア) 内部研修として、虐待防止チェックリストの結果を踏まえ、「呼称について」と「施設あるあるから考える虐待と不適切支援について」をテーマとしたグループ討議を行った。
- (イ) 毎日の夕会では、その日にあった支援の取り組みについて共有し、より良い支援のための意見交換を行って意思統一を図った。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務改善

業務全体を分担表に表示して遂行状況をチェックするようにし、業務の偏りや負担が無いよう見直した。

イ ストレス軽減

課長や主任が積極的にコミュニケーションを取り、その都度疑問や不安に対する相談に乗って対処することを実践した。また、「心の健康を守るメンタルヘルス対策」の動画視聴を全員が行い、ストレスとうまくつき合う方法を学んだ。

(3) 人材育成

ア 研修への参加

障がい者雇用サポートセミナー、日中活動支援のあり方、生産活動就労支援部会、福祉施設ブランディングなど、就労支援に特化した研修会への参加を進めた。

イ 他事業所見学

移行支援の職員 1 名が、東松山の「就労支援センターZAC」を見学し、就労支援の取り組みを学んだ。

(4) リスク管理

ア 災害対策

災害対策については、火災や地震、水害などを想定した訓練を実施した。利用者自治会でも環境整備について話し合い、落下物の危険性についても見直しを行った。大規模災害を想定した連絡先一覧の整備等については、一覧のサンプル作成にとどまり、帰宅方法についての確認作業は次年度に持ち越しとなった。

イ 安全管理

味噌製造については、職員 2 名が普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習を受講し、安全面を強化した。ボイラーや圧力容器等の設備点検については計画どおりに実施した。

ウ 感染症防止対策

2 月に就労継続 B 型の利用者 17 名職員 2 名がコロナに感染したが、いずれも重症化することは無かった。

(5) 地域交流

ア 地域との交流

久喜市民まつりや Amazon Japan 久喜工場、清久コミュニティまつり、まなびすと久喜などのイベントに参加し、味噌販売を通して地域との交流を深めた。

イ 地域貢献

近隣を回っての清掃活動に取り組んだほか、地先管理での除草や花壇の手入れなどを定期的に行った。